

試験地設定

(様式1)

区分 自主

吉方 営林署

開発課題	下川方法による保育作業の省力化				期間	自56年度 至61年度	
開発目的	下川回数年次により保育体系の探求 下川～枝打						
設定	場所	営林署	担当区	国有林	林小班		
		吉方	天分	内谷山	17号1		
	数量	面積	数量				
		0.40 (3.43)					
設定年月日	S. 56年8月		終了年月日	S. 61年			
担当	営林局	課 係					
	営林署	経済課 営林 係					
地況及び気象	標高	方位	傾斜	基岩	土壌型	土性	
	600m	NW	緩	花崗岩類	B0	壤土	
	深度	堅密度				地位	
	中	軟				スギ	ヒノキ

林	林令	林種	樹種	混交率	胸高直径	樹高	材積	本数	相対照度	下層植生
	40年	10林	杉 巴中		22 18	16 11	4.259 2.102			
況	設定前の施業経緯	年度	作業種	人員	備考	年度	作業種	人員	備考	
		49	地打	47		50	下川	29		
		"	植付	70		54	"	31		
		50	下川	223		55	"	33		
		51	"	24		56	下川	19	41024500	
		52	"	23						
		3	2.5/7 採伐							
全体計画	1. 試験地の設定									
	下川回数 6回川 標準地 0.1 HA " 8 " 0.1 " " 10 " 0.1 " " 12 " 0.1 " 4ポイント設置									
2. 調査項目										
1. 植生調査										
2. 成長量調査										
3. 地盤調査										

- 記載要領
1. 区分は指示、自主、任意課別とする。
 2. 全体計画欄は年度別、実施事項及び目標、また、林試等の指導関係を記入する。

試驗地設定

区分 自由

地方 官林署

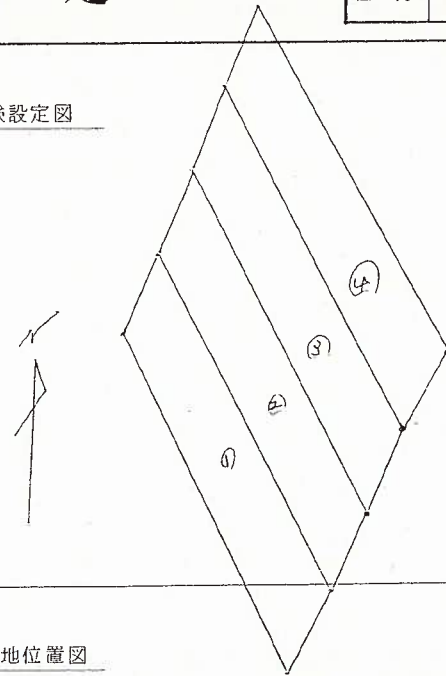
(様式2)

実施計画			
1. 試驗地 各ポイント面積 0.1 HA			
第1ポイント	第2	第3	第4
6回刈 (標準地)	8回刈	10回刈	12回刈
49年植付	56年下刈	56年下刈	56年下刈
50 " 下刈	57 "	57 "	57 "
51 "		58 "	58 "
52 "		59 "	59 "
53 "			60 "
54 "			61 "
55 "			

2. 調査項目

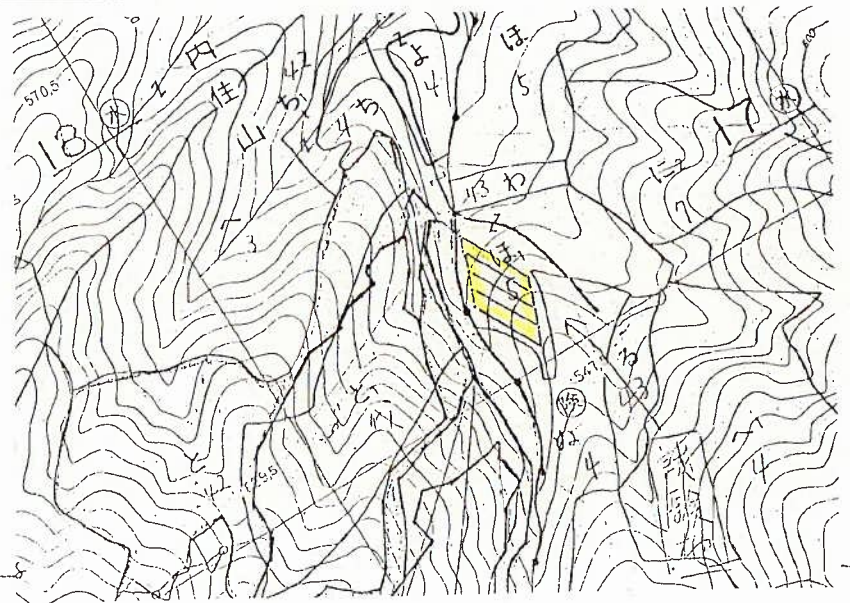
- 1) 成長量調査 樹高等級 20本(各ポイント)
- 2) 植生調査 雑草・木 又中・高木調査
- 3) 功程調査 草量調査(子測定)

試験設定図



1. 標準地
2. 8回刈
3. 10 "
4. 12 "
5. 1/1000

試験地位置図



試験経過記録

区分 自主

直方 営林署

(様式4)

項目	年度 被験地	56年	57年	58	59	60	61
		試験時					
樹高	m 標準地	2.97	3.64	4.13			
	8回刈	3.05	3.82	4.44			
	10 "	2.97	3.70	4.20			
	12 "	3.04	3.75	4.20			
胸高径	cm 標準地	3.4	4.7	6.1			
	8回刈	3.0	4.8	6.8			
	10 "	3.5	4.5	6.6			
	12 "	3.6	4.8	6.7			
植生樹高 力ヤ	m 標準地	1.40 ~1.60	2.00 ~2.20	1.50 ~2.40			
	8回刈	1.50 ~1.60	1.20 ~1.40	1.00 ~1.50			
	10 "	1.50 ~1.60	0.90 ~1.10	1.00 ~1.50			
	12 "	1.60 ~1.70	0.90 ~1.20	1.00 ~1.60			
植生樹高 雑木	m 標準地	1.40 ~1.80	2.00 ~2.40	1.50 ~3.00			
	8回刈	1.70 ~1.90	1.50 ~1.70	1.30 ~1.50			
	10 "	1.50 ~1.60	0.80 ~1.00	0.70 ~0.90			
	12 "	1.40 ~1.70	0.80 ~1.10	0.70 ~0.90			
下刈功績 人	標準地	9.0	8.7	8.0			
	8回刈	9.1	6.3	7.0			
	10 "	8.8	6.6	6.3			
	12 "	9.3	6.4	6.4			

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

評価および普及計画

区分 自主

直方

営林署

(様式5)

昭和58年度調査結果

- ① 調査2年目で樹高等長利成長は明らかな「ぬい」か
粗かん木等が減少したため、幼齢において差が見られる。
- ② 標準地(6回刈)はつる類の発生が多く、今後成長阻
害が予想される。

状 况 写 真

区分	自主
----	----

直方 营林署

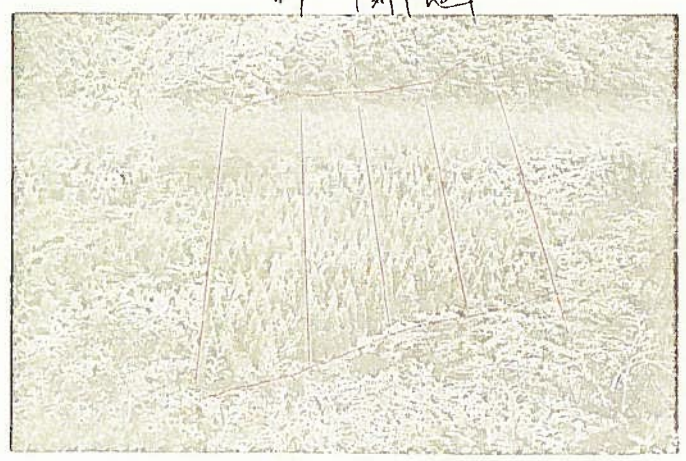
(様式 6)

56年試験跡設定時



59年8月

12 10 8 柳
" | | | 半
" | | | 地



(自主課題)

昭和57年度技術開発実施報告書

課 題	継続 新規	継続	経常 特別 経常 特別 経常 特別 経常 特別	1-1	担 当	道 方 署	期 間	昭和57年度 ~ 昭和58年度	予 算 科 目	技 術 開 発	経費	品名	数量	単価	金額	
												千円				
目的	下刈方法による保育作業の省力化(その1)															
目的	下刈回数も延長することにより阻害植生の除去と造林木の生長増大を促進(除伐作業等の省力をはかる) (直方署、昭和56~57年度実施期間、長崎署、昭和54~59年度実施期間)															

全体計画	実施経過	当年度分																																																																																																																	
		実施計画	実施結果																																																																																																																
<p>長崎署</p> <p>1. 昭和56年度試験地設定 (1) 対象林分は昭和58年度程度 49~53年度下刈実施箇所を54~56年度より下刈を延長(実行中)</p> <p>2. 調査 (1) 生長量調査 (2) 阻害植生調査</p> <p>直方署</p> <p>1. 昭和56年度試験地設定 下刈回数別標準地 (1) 第6回下刈区 0.1Ra (2) 第8回 " 0.1Ra (3) 第10回 " 0.1Ra (4) 第12回 " 0.1Ra</p> <p>2. 調査 (1) 生長量調査 (2) 植生調査 (3) 功程調査</p>	<p>長崎署</p> <p>1. 昭和54年度 設定面積 1.00Ra 下刈区 0.5Ra (0.25Ra E Z箇所) 対照区 0.5Ra (0.25Ra E Z箇所)</p> <p>2. 昭和55-56年度 (1) 下刈実行 (2) 生長量調査 (3) 阻害植生調査</p> <p>3. 昭和56年度調査 (1) 生長量調査 生長期の平均樹高2.9m 径級3cm 枝張り1.6mで下刈延長効果は明らかである。</p> <p>(2) 植生調査 植生被度は常緑樹本類が70% E 苔 類落葉樹本類10%、草本類5%、造林 木15%と成っている。植生の平均 樹高はコナラ類2.7m、ヤブコシジリ サカキ2.2m等と成っている。</p> <p>直方署</p> <p>1. 昭和56年度 (1) 生長量調査</p>	<p>1. 生長量調査</p>	<p>1. 生長量調査</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">調査区</th> <th colspan="2">設定時</th> <th colspan="2">57年10月</th> <th colspan="2">生長量</th> </tr> <tr> <th>調査区</th> <th>樹高</th> <th>直径</th> <th>樹高</th> <th>直径</th> <th>樹高</th> <th>直径</th> <th>直径</th> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>2.97</td> <td>3.4</td> <td>3.64</td> <td>4.7</td> <td>0.67</td> <td>1.3</td> <td>cm</td> </tr> <tr> <td>8回下刈</td> <td>3.25</td> <td>3.0</td> <td>3.82</td> <td>4.8</td> <td>0.77</td> <td>1.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10回下刈</td> <td>2.97</td> <td>3.5</td> <td>3.70</td> <td>4.5</td> <td>0.73</td> <td>1.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12回下刈</td> <td>3.04</td> <td>3.6</td> <td>3.25</td> <td>4.8</td> <td>0.71</td> <td>1.2</td> <td></td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">調査区</th> <th colspan="2">設定時</th> <th colspan="2">57年10月</th> <th colspan="2">生長量</th> </tr> <tr> <th>調査区</th> <th>樹高</th> <th>直径</th> <th>樹高</th> <th>直径</th> <th>樹高</th> <th>直径</th> <th>直径</th> </tr> <tr> <td>I対照区</td> <td>2.4</td> <td>1.7</td> <td>3.6</td> <td>4.4</td> <td>1.2</td> <td>2.7</td> <td>cm</td> </tr> <tr> <td>I対照区</td> <td>2.3</td> <td>1.7</td> <td>3.4</td> <td>3.6</td> <td>1.1</td> <td>1.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>II下刈区</td> <td>2.0</td> <td>1.2</td> <td>3.3</td> <td>4.1</td> <td>1.3</td> <td>2.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>II対照区</td> <td>2.2</td> <td>1.6</td> <td>2.1</td> <td>4.2</td> <td>1.4</td> <td>2.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均下刈区</td> <td>2.2</td> <td>1.5</td> <td>3.5</td> <td>4.3</td> <td>1.3</td> <td>2.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均対照区</td> <td>2.2</td> <td>1.7</td> <td>3.5</td> <td>3.9</td> <td>1.3</td> <td>2.2</td> <td></td> </tr> </table>	調査区		設定時		57年10月		生長量		調査区	樹高	直径	樹高	直径	樹高	直径	直径	対照区	2.97	3.4	3.64	4.7	0.67	1.3	cm	8回下刈	3.25	3.0	3.82	4.8	0.77	1.8		10回下刈	2.97	3.5	3.70	4.5	0.73	1.0		12回下刈	3.04	3.6	3.25	4.8	0.71	1.2		調査区		設定時		57年10月		生長量		調査区	樹高	直径	樹高	直径	樹高	直径	直径	I対照区	2.4	1.7	3.6	4.4	1.2	2.7	cm	I対照区	2.3	1.7	3.4	3.6	1.1	1.9		II下刈区	2.0	1.2	3.3	4.1	1.3	2.9		II対照区	2.2	1.6	2.1	4.2	1.4	2.6		平均下刈区	2.2	1.5	3.5	4.3	1.3	2.8		平均対照区	2.2	1.7	3.5	3.9	1.3	2.2	
調査区		設定時		57年10月		生長量																																																																																																													
調査区	樹高	直径	樹高	直径	樹高	直径	直径																																																																																																												
対照区	2.97	3.4	3.64	4.7	0.67	1.3	cm																																																																																																												
8回下刈	3.25	3.0	3.82	4.8	0.77	1.8																																																																																																													
10回下刈	2.97	3.5	3.70	4.5	0.73	1.0																																																																																																													
12回下刈	3.04	3.6	3.25	4.8	0.71	1.2																																																																																																													
調査区		設定時		57年10月		生長量																																																																																																													
調査区	樹高	直径	樹高	直径	樹高	直径	直径																																																																																																												
I対照区	2.4	1.7	3.6	4.4	1.2	2.7	cm																																																																																																												
I対照区	2.3	1.7	3.4	3.6	1.1	1.9																																																																																																													
II下刈区	2.0	1.2	3.3	4.1	1.3	2.9																																																																																																													
II対照区	2.2	1.6	2.1	4.2	1.4	2.6																																																																																																													
平均下刈区	2.2	1.5	3.5	4.3	1.3	2.8																																																																																																													
平均対照区	2.2	1.7	3.5	3.9	1.3	2.2																																																																																																													

様式 2

昭和 59 年度 技術開発実施 計画 報告

直方 営林(支)局

課 題	継続 新規	継続 新規	経常 特別	経常 特別	担 当	開発 箇所	期 間	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費				
										品 名	数 量	単 価	金 額	
										物件費				千円
										役務費				
										人件費		2人		
										計				
目 的										下列回数年次に於り保育体系の探求				
全 体 計 画			実 施 経 過				当 年 度 分							
1. 試験地の設定 下列回数6回(標準地)8回、10回、12回別、4プロット設定 各プロット 0.1HA 2. 調査 1. 植生調査 2. 成長量調査 3. 功程調査			① 下列 ○ 8回川巴 56.57年下川実施。 ○ 10回川巴 56.57.58.59年下川実施 ○ 12回川巴 56.57.58.59年下川実施				実 施 計 画		実 施 結 果			評価および普及計画		
							項 目	標準地	8回	10回	12回	① 試験地内2プロットに於り標準地等が利用可能と認められるが、樹木等標準地を除去し、減少したため功程に於いて差が認められる。 ② 標準地(6回川)は73本の健全な木が多く、標準木20本の内7本が73本の如く先端部が健全なため、成長阻害が認められる。		
						1. 植生調査	標準地	5.00	5.40	5.20	5.10			
						2. 成長量調査	胸高径 (cm)	7.0	8.1	7.9	7.9			
						3. 功程調査	植生樹高力ヤ	1.50 2.50	1.00 1.80	1.00 1.40	1.00 1.50			
							" 樹高力ヤ	1.60 3.20	1.30 2.60	0.50 0.80	0.50 0.70			
							下川功程(人)	1.8	1.8	1.0	1.0			

試驗經過記錄

区分 自主

直方 當林署

(樣式4)

表一 / 生長量、植生、功程調查表

項目	年度	56年缺	57年	58	59	60	設定當時 と10年後 の比率
	被缺已	被缺時					
樹高 m	6回測	2.97	3.64	4.13	5.00	5.80	195%
	8回測	3.05	3.82	4.44	5.40	6.20	203
	10 "	2.97	3.70	4.20	5.20	6.00	202
	12 "	3.04	3.75	4.20	5.10	5.80	181
胸高徑 cm	6回測	3.4	4.7	6.1	7.3	8.7	256
	8回測	3.0	4.8	6.8	8.1	9.9	330
	10 "	3.5	4.5	6.6	7.9	9.5	271
	12 "	3.6	4.8	6.7	7.9	9.4	261
植生樹高 力ヤ m	6回測	1.40~1.60	2.00~2.20	1.50~2.40	1.50~2.50	1.0~1.50	
	8回測	1.50~1.60	1.20~1.40	1.00~1.50	1.00~1.80	1.0~1.20	
	10 "	1.50~1.60	0.90~1.10	1.00~1.50	1.00~1.40	0.50~1.00	
	12 "	1.60~1.70	0.90~1.20	1.00~1.60	1.00~1.50	0.50~1.00	
植生樹高 雜木 m	6回測	1.40~1.80	2.00~2.40	1.50~3.00	1.60~3.20	1.60~3.70	
	8回測	1.70~1.90	1.50~1.70	1.30~1.50	1.30~1.60	1.00~1.80	
	10 "	1.50~1.60	0.80~1.00	0.70~0.90	0.50~0.80	0.50~0.80	
	12 "	1.40~1.70	0.80~1.10	0.70~0.90	0.50~0.70	0.50~1.00	
下刈功程 人	6回測	9.0	8.7	8.0	8.2	7.1	
	8回測	9.1	6.3	7.0	6.8	6.7	
	10 "	8.8	6.6	6.3	6.0	6.0	
	12 "	9.3	6.4	6.4	6.0	6.0	

記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。

試験経過記録

区分 自主

直方 営林署

(様式4)

功程調査因子 (草量調査)

項目	年度		57年	58	59	60	61
	試験地	5年試験 設定時					
(東) 力ヤ	標準地	1.0	1.3	1.6	1.6	1.4	
	8回刈	0.9	0.4	0.8	0.4	0.2	
	10 "	0.7	0.8	0.4	0.2	0.2	
	12 "	1.1	0.6	0.5	0.2	0.2	
(東) 雑草木	標準地	4.0	3.0	1.4	1.6	1.8	
	8回刈	4.3	0.6	1.0	1.3	1.5	
	10 "	4.1	0.4	0.5	0.4	0.4	
	12 "	4.3	0.4	0.5	1.4	0.4	

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

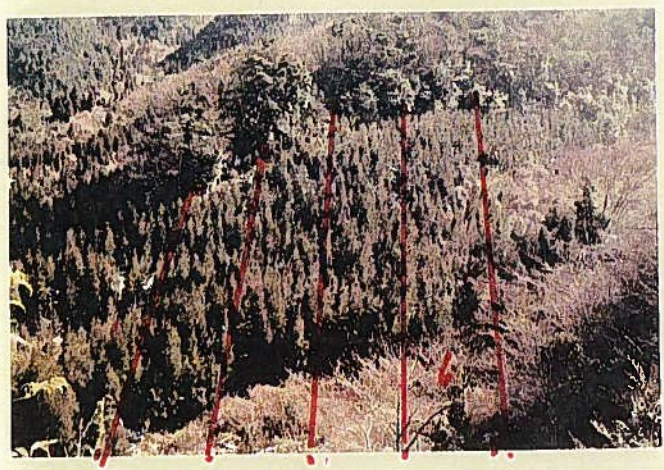
状 況 写 真

区分 自主

直方 営林署

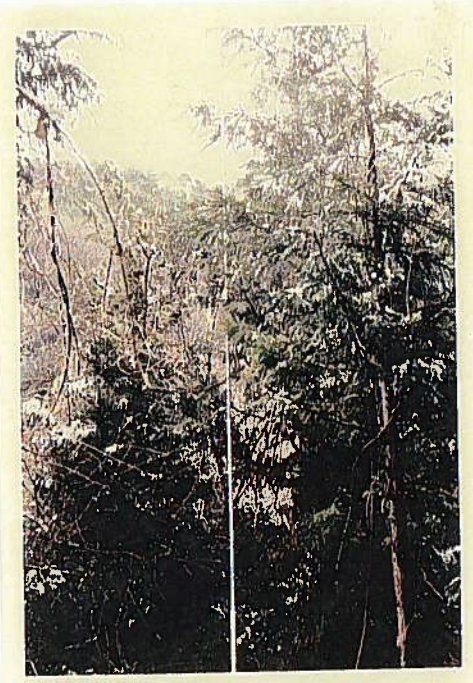
(様式6)

60年12月

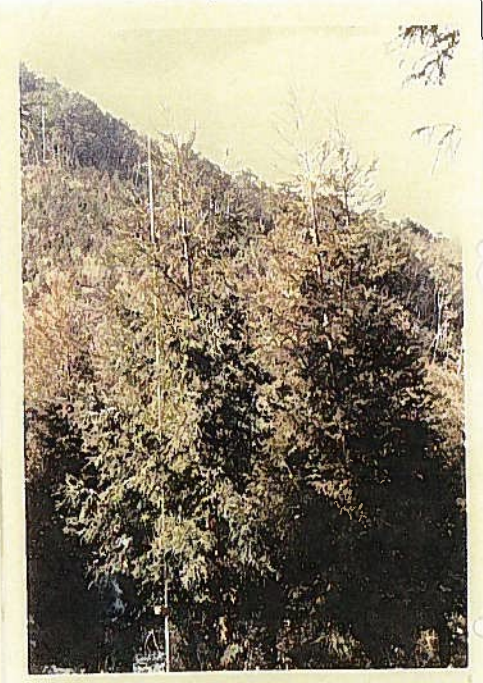


12
回
刈
10
回
刈
8
回
刈
6
回
刈

6回刈



10回刈



試験経過記録(その1)

直方 営林署

課題

下刈方法による保育作業の省力化

1. はじめに

下刈は目的樹木の成長に必要な陽光を与え健全な生育を図ることを主眼として実施する作業である。現在の下刈標準は5年(又は6年)程度であり、場所によってはその後の植生との競争により除伐期までの間、雑草林木のため生長阻害を受けているのが現状である。今回下刈年数を延期することにより、阻害植生が除去され、植栽木の生長促進と、除伐作業の省略等の関係について試験を行った。

2. 試験地の概況

1. 場所 福岡県嘉穂郡筑穂町内住小国有林 1ヶ所、林小班
2. 地況 標高600m、方位NW、傾斜緩、基岩 花崗岩類 土壌型 B0
3. 林況 樹種 スギ 49年3月植栽 3000本/HA
4. 試験地の配置図

設置面積 0.4HA

6	8	10	12
回	回	回	回
刈	刈	刈	刈
区	区	区	区

記載要領

1. 調査結果は逐次記入する
2. 状況写真は適宜添付する

試験経過記録(その2)

3. 調査結果

(1) 生長量調査

図1

項目	年度 試験区	56年	57	58	59	60	61	設定時と 61年度との 比率
		設定時						
樹高 (m)	6回刈	2.97	3.14	4.13	5.00	5.80	6.30	212%
	8 "	3.05	3.82	4.44	5.40	6.20	6.90	226%
	10 "	2.97	3.70	4.20	5.20	6.00	6.60	222%
	12 "	3.04	3.75	4.20	5.10	5.80	6.40	211%
胸高直径 (cm)	6回刈	3.4	4.7	6.1	7.8	8.7	9.7	285%
	8 "	3.0	4.8	6.8	8.1	9.9	10.6	353%
	10 "	3.5	4.5	6.6	7.9	9.5	10.4	297%
	12 "	3.6	4.8	6.7	7.9	9.4	10.8	286%

試験地は各筋の北西斜面に位置し生育は中位である。

調査結果は図1のとおりで、56年8月設定時の樹高平均は各プロット共 3.0^mで胸高直径は平均6回刈区 3.4^{cm}、8回刈区 3.0^{cm}、10回刈区 3.5^{cm}、12回刈区 3.6^{cm}であった。ところが61年12月(12生長期)では樹高平均 6回刈区 6.30^m(212%)、8回刈区 6.90^m(226%)、10回刈区 6.60^m(222%)、12回刈区 6.40^m(211%)となり、胸高直径平均 6回刈区 9.7^{cm}(285%)、8回刈区 10.6^{cm}(353%)、10回刈区 10.4^{cm}(297%)、12回刈区 10.8^{cm}(286%)となった。

この結果、樹高、胸高直径とも8回刈区が一番よい成長を示している。次いで10回刈区、6回刈区、12回刈区となり、したがって今後は6回刈区は雑草木の被圧測圧を受け年々生長差が狭く互いのと考へる。

記載要領

1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。

試験経過記録(その2) - 1

(2) 植生調査 (雑かん木、ススキの高さ)

図 2

項目	年度		57	58	59	60	61
	試験地	56年 設定時					
植生樹高 (雑かん木) (m)	6回刈	1.40 ~1.80	2.00 ~2.40	1.50 0.00	1.60 2.20	1.60 2.70	2.00 2.50
	8 "	1.70 1.90	1.50 1.70	1.30 1.50	1.30 1.60	1.00 1.80	1.00 2.00
	10 "	1.50 1.60	0.80 1.00	0.70 0.90	0.50 0.80	0.50 0.80	0.50 1.00
	12 "	1.40 1.70	0.80 1.10	0.70 0.90	0.50 0.70	0.50 1.00	0.50 1.00
	6回刈	1.40 1.60	2.00 2.20	1.50 2.40	1.50 2.50	1.00 1.50	0
植生樹高 (カヤ) (m)	8 "	1.50 1.60	1.00 1.40	1.00 1.50	1.00 1.80	1.00 1.20	0
	10 "	1.50 1.60	0.90 1.10	1.00 1.50	1.00 1.40	0.50 1.00	0
	12 "	1.60 1.70	0.90 1.20	1.00 1.60	1.00 1.50	0.50 1.00	0
	6回刈	1.40 1.60	2.00 2.20	1.50 2.40	1.50 2.50	1.00 1.50	0
	8 "	1.50 1.60	1.00 1.40	1.00 1.50	1.00 1.80	1.00 1.20	0

侵入広葉樹としては、アカガシ 77%、コシイ、カエデ、サカキ、アサキ、ススキ等が多く発生している。

① 雑かん木については、図2のとおりであるが6回刈区については、56年8月設定時、樹高平均 1.5m であるが61年12月では平均 2.8m で植栽木を相当に被圧した状態と見られる。今後は生長阻害が大きくなるものと考え、他の箇所については下刈を実施した関係で、少経で樹高も低く見られ、植栽木に対する生長阻害はないものと考え。

② ススキについては各プロット共、設定時1束(高さ1.5m)平均であったが最終調査時まではほとんどなくなり、植栽木に対する影響は全くない。

記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。

試験経過記録(その2)-2

直方 富田君

(3) 功程調査 (下刈功程)

理-3

項目	年度		57	58	59	60	61
	試験地	56年 設定時					
下刈功程 (人)	6回刈	9.0	8.7	8.0	8.2	7.1	6.8
	8 "	9.1	6.3	7.0	6.8	6.7	6.5
	10 "	8.8	6.6	6.3	6.0	6.0	5.6
	12 "	9.3	6.4	6.4	6.0	6.0	5.6

功程調査因子として草量調査を行ったので参考として(理-3(1))を添付する。

功程調査因子(草量調査)表

理-3(1)

項目	年度		57	58	59	60	61
	試験地	56年 設定時					
カヤ (束)	6回刈	1.0	1.0	1.6	1.6	0.4	0
	8 "	0.9	0.4	0.8	0.4	0.2	0
	10 "	0.7	0.8	0.4	0.2	0.2	0
	12 "	1.1	0.6	0.5	0.2	0.2	0
雑草 (束)	6回刈	4.0	3.0	1.4	1.6	1.8	2.0
	8 "	4.3	0.6	1.0	1.0	1.5	1.6
	10 "	4.1	0.4	0.5	0.4	0.4	0.1
	12 "	4.3	0.4	0.5	0.4	0.4	0.1

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

試験経過記録(その2)-3

直方 簡林著

○当試験地の施業状況 下列 四-4

年度	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	HA当 進人工数
回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
6回刈	6.8	7.0	6.7	8.5	9.0	9.6							47.6
8 "	6.8	7.0	6.7	8.5	9.0	9.6	9.1	2.0					63.0
10 "	6.8	7.0	6.7	8.5	9.0	9.6	8.8	6.6	6.3	6.0			75.3
12 "	6.8	7.0	6.7	8.5	9.0	9.6	9.0	6.4	6.4	6.0	6.0	5.6	87.3

55年度までは実施。

○当署除伐実績(請負) 四-5

年度	57	58	59	60	61	部	5年平均
平均功程 HA当 (人)	12.2	12.0	12.7	12.2	12.2	67	12.4人

調査結果は四-3、四-4のとおりである。下列総進人工数は6回刈で47.6人、8回刈63人、10回刈75.3人、12回刈87.3人と行った。

又除伐は四-5のとおり当署実績HA当7 12.4人と行った。現在の当署の保有標準の寸小は除伐は10年目と15年目の2回実施するに比べて2回3が2回実施すれば12.4×2=26.8人と行った。

下列6回1回の場合に除伐2回実施するに比べて人工数下列47.6人 除伐2回で26.8人 進人工数74.4人と行った。下列2年進期8回刈を実施した場合と比較すれば、2回の除伐を実施したく7回の2 総人工数63人で仕上り、74.4-63=11.4人の減、10回刈では0.9人の増、12回刈では12.9人の増と行った。

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

4. 考察

現在当局の保齊作業の標準は小は下刈は5年(又は6年)、除伐は10年目と、15年目と行っているが、下刈後4-5年の期間が一番雑草木のため、生長障害を受け、年遅小株多と行っているのが現状である。今回の試験により8回刈り込め木々の平均樹高6.90m 雑草木の平均樹高1.5mでほとんど植栽木に対する生長障害はないものと推察される。又功程において8回下刈を実施するに4で成木の見込があり、総作業人数が114人の減となり、現在の下刈標準5年(6年)を、下刈2年(3年)迄取す小は10年目、15年目の2回の除伐が省略が出来、経済的にも有利なものと考えらる。

記載要領

1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。

< 6回刈区 >



< 8回刈区 >



< 10回刈区 >



< 12回刈区 >

